

SHIN CLUB 201

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「SHIN CLUB 展」より 撮影：アック東京

「SHIN CLUB 展 渋谷の建築屋 200 カ月の記録」開催

11月15日、以前よりお知らせしておりました、創刊200号記念イベント「SHIN CLUB 展 渋谷の建築屋 200 カ月の記録」を渋谷ヒカリエにて開催しました。改めて全ての号を前にしますと壮観でした。建築を取り巻く環境も、変化してきたということを実感いたしました。

1999年、前身会社の破たんの後、新たに「株式会社辰」として10月よりスタートしてから半年たった2000年4月、再び仕事を進めていくために、そして現場員中心の社内の情報共有のために、ニュースレター「Shin Club」は生まれました。

発足当初はお伝える情報も少なく、撮影も自前で、A3片面の用紙で作成した原稿を自社のプリンターでプリントしていく簡単なものでした。

しかし、「Omni Quarter」や「BALCON」など、完成させた仕掛かり工事が建築専門誌に取り上げられ、「辰はまたきちんと施工をしている」と次第に建築家の先生からの見積もりを頂くようになっていきました。

特に、当時「デザイナーズ・マンション」のお仕事をさせていただくことで、施工物件が一般の雑誌にも掲載され、弊社への工事のご依頼も増えていきました。紙面も「写真中心のインパクトのあるものにしなくて」と、50号からはトップに竣工写真を大きく扱い、情報量も増やして両面印刷としました。

紙面刷新した50号からは竣工物件の建築家の先生にスポットを当てた「建築家紹介」のシリーズを設け、その一方「現場最前線」というコーナーで、解体業から順番に各業の協力会社の社長に登場いただきました。本音にあふれたお話の中には、小さなスペースでは紹介しきれないこともありました。

こだわりの建築を建てられるお客様もまた、個性的な方が多く、「建築家紹介」のシリーズの後、今度は「フロントライン」というコーナーを設け、事業を行う方、住宅をお建てになる方に建築に対する思いを語っていただ

きました。

バブルがはじけた後、少し復調を見せていたかと思われた建設業界でしたが、構造計算書偽造問題（2005年）、そしてリーマンショック（2008年）と再び厳しい経営環境に見舞われることになりました。

そして、2011年3月、東北地方を襲った「東日本大震災」は、施工者、建築設計者だけでなく、多くの人々の考え方を根底から揺さぶる大事件でした。私たちがかつてよりどころとしていた「安全・安心」が、いかに不十分であったか、思い知らされました。

震災の後、多くの建設現場では職人の不足や建築費の高騰などで、厳しい状況が続きました。しかしRC造の中規模建築施工に特化している弊社は、そんな中でもコンスタンスに見積もりをいただき、順調な歩みを続けています。新入社員も増え、最近では女子の施工管理希望者も積極的に採用しています。勉強会や施工見学会、グループ会社の合同運動会など、社内の環境も明るくなってきました。

2020年の東京オリンピック開催が決まりました。「安全・快適な街づくり」に弊社のような中規模の建設施工会社がお役に立てる場面が、益々増えると思われれます。一つ一つの建築を大切に作る気持ちを、今後もお伝えしてまいりたいと存じます。

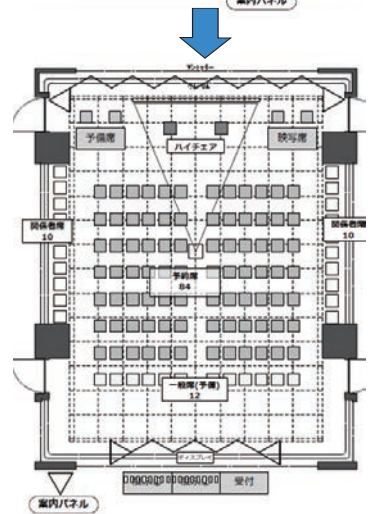
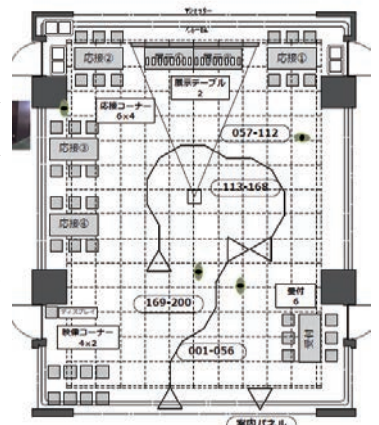
どんなに良く・安く・早く作れても、不要な物は作らない時代だからこそ、今度は私たち自身が「どんな社会を作りたいのか」にチャレンジし、「SHIN CLUB」は、辰と社会をつなぐメディアであり続けたいと思います。



第1部の展示会は、これまでの「SHIN CLUB」200号分を44枚のパネル（プラベニヤ）の表裏に貼り付け、衝立にして会場を巡ってご覧いただけるようにしました。

周囲には建築についてのご相談や採用についてのお問い合わせにもお応えできるよう、スタッフを配置しました。モニターでは、掲載順にスライドショーを流し、弊社の歩みをご覧いただくようにしました。

会場には、施工した建物のオーナー様や設計者様のほか、記事に協力いただいたり、工事を担当された協力業者の方々を訪れてくださいました。これまで辰の施工物件になじみのなかった方も多くの建物のデザインに魅了されていました。



①セッティングを終え、お客様を待つ受付スタッフ②会場のモニターに1号から順に施工物件をスライド上映③お客様と記念撮影する森村社長④工事に参加した「けやきビル」掲載号の前で、協力会社の社長と兄弟⑤展示パネルをセット完了、記念撮影⑥展示終了後、短時間で「ゲスト・トーク」のために急いでレイアウトを変更

ゲスト・トーク

ゲスト: 團紀彦氏 (建築家・都市計画家)

「ゲスト・トーク」には「表参道けやきビル」の設計者、團紀彦氏をお迎えしました。トーク開始まで、弊社の施工した「表参道けやきビル」のメイキング・ビデオをお客様にご覧いただき、いよいよトーク開始。團氏の設計作品をスライドを見ながらご紹介いただく一方、愛知万博で環境重視の原案を棄却した政府案に対して森の保全を訴えたことや、台湾国内での巨大プロジェクトを通しての奮闘ぶりなどをお話いただき、今回のイベント企画を担当した松村拓也氏（辰・創業メンバー、起業支援家）が「チャレンジ」の意味を問いかけてました。（以下、松村氏コメント）

『SHIN CLUB』とはその名の通り『辰に関わる人たちが集うコミュニティ』です。そこで今回は、建築が社会や世界に及ぼす影響について『SHIN CLUB コミュニティの皆様』にお伝えし、新たなビジネスや建築が誕生する、そ

の一役を担わせていただきたいと思います。

何事も生まれる過程は、出来上がった姿からは考えられない苦労の連続です。特に建築は、社会の衆目の中でぶっつけ本番の一品生産ですからなおさらですが、それが語られることはなかなかありません。旧知の先輩である團紀彦氏が、私の顔を見るといつも親しげにぼやいて下さったことを思い出し、ゲスト役をお願いしたところ、即座に快諾していただきました。

今回は特に、『最後には称賛を受けた仕事も、その途中にはどろどろの戦いがあった』ということを中心に話していただきました。そんな話を判りやすく面白く語っていただくこと自体が、團氏の仕事ぶりをよく物語っています。常にチャレンジし、未来を切り開くためには、情熱と勇気、そして楽しさが大切だと感じました」

（松村拓也）



①「ゲスト・トーク」スタート。團氏（右）と松村氏（左）②設計作品を次々とスライドで上映しながら、解説する團氏③観客は予約制でほぼ満席④スライド上映を終えて、團氏のフリートーク。この後質疑応答⑤Q&Aタイムで質問をする光井純氏。團氏の大学の先輩でイェール大にも同時期、留学していたご縁がある⑥團紀彦氏

1956年：神奈川県生まれ
 1979年：東京大学工学部建築学科卒業後大学院で榎文彦氏に師事
 1984年：米国イェール大学建築学部大学院卒業。帰国後、自ら設計事務所を開設。
 ・愛知万博の計画では初期の段階で環境重視型の会場計画の日本政府案を作成、日本へ誘致を成功させた。その後、環境型原案の棄却と平場造成の復活に対し、厳しく批判、海上（かいしよ）の森の保全に道をひらいた。
 ・台湾で2011年完成した「日月潭風景管理处」は国際的に高い評価を受けるとともに台湾国内でも日月潭の人気観光スポットとなり、外国人としてはじめて台湾建築賞首賞を与えられた。
 ・日本橋室町地区のマスターアーキテクトとして、街路再生型都市計画を実践するなど内外の計画で国際的に注目される。
 代表作：
 台北桃園国際空港第一ターミナル再生計画（台湾建築賞首賞）、日月潭風景管理处（台湾建築賞首賞）、表参道けやきビルなど。

第2部 記念パーティ

渋谷ヒカリエ「THE THEATRE TABLE」

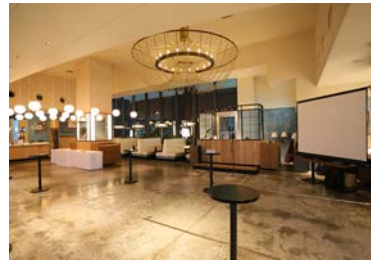
ゲストトーク終了後は11階のレストラン「THE THEATRE TABLE」において、「SHIN CLUB」にご登壇いただいた方を中心にご招待した皆様への感謝の宴を開かせていただきました。

平日夜とあって、お仕事で欠席のお返事をいただいた方も多く、主催者側としては申し訳なかったのですが、たくさんの方々にご出席いただきました。

来賓の方のご挨拶をいただき、その後、スライド上映で掲載物件を駆け足で紹介しながら、自由にご歓談いただきました。

また現在、施工中でまだ掲載に至っていないお客様や、来る東京オリンピックで新たに選ばれたエンブレムのデザイナー、野老朝雄氏など、未来の辰に期待を寄せていただいているお客様にもご出席いただきました（お正月にお配りするお年賀には、野老様デザインの手ぬぐいをご用意する予定です）

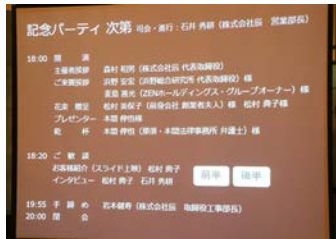
なお、「銀座ウエスト」の依田社長様、みずほ銀行渋谷中央支店様から、皆様へのお土産にご協力をいただきました。改めてお礼申し上げます。



受付開始。ヒカリエは11月半ばでクリスマス・モード。店内はカジュアルです。



花束に感謝の編集者と創業者夫人（右）



開始までスライドで式次第を提示中



来賓挨拶は浜野安宏様



ZEN グループ 麦島善光様



乾杯の首頭は、本間伸也様



マリモの高山康彦様ご夫妻



アーキネット織山和久様



アーキプラス中村晃様



鎌倉の耳鼻科医院院長の赤尾一郎様（中央）



田中朋久様（設計者）と水谷隆一様敏恵様（施主）ご夫妻



自社ビルのスライドに合わせてポーズをとる平塚の高久製パンの高久榮二様



構造計画プラスワンの金田勝徳様（左）と谷内田章夫ワークショップの端島勝文様（右）



銀座ウエストの依田龍一様



依頼数なら一番、桑原聡様



ベスト5か、鈴木孝紀様



アトリエエスタスの清孝英様（左）と木名瀬佳世様（中央）



加藤かおる様（左）とアルボスの関根裕司様（中央）と東協建築の寺井誠治様（右）



左から荒川創様、田邊曜様、木下道郎WSの清水晋一郎様、荒川真様



Zefaの川上高義様（右）



東京五輪・エンブレムのデザイナー野老朝雄様



朝ドラ「あさが来た」の作曲家、林友樹様



最後に記念撮影、株式会社社員役員全員集合



グリーンシード岡本真治様（左）とVAV倶楽部近藤昌平様（右）からお花をいただきました。

この他にもたくさんの方にご出席賜りましたが、第1部からご参加いただく長時間のため、早めにお帰りになったお客様もおられました。申し訳ありませんでした。

「第6回 ZEN 社一丸大運動会」 2016年10月29日 場所：よみうりランド

10月29日(土)、よみうりランドにて「第6回ZEN社一丸大運動会」が盛大に開催されました。辰チームとして175名の方が参加してくださいました。皆様に改めて感謝申し上げます。
運営側から見ると大成功でしたが、辰チームとしては2位に終わってしまったのが残念です。
自分は、来年は運営側から社内実行委員に場を移し、優勝旗奪還に全力を尽くしたいと思っています。来年は10月28日(土)に開催いたします。たくさんの方々のご参加をお待ちしています！

ZEN 実行委員 若井 定昭



運動会に「玉入れ」は必須プログラムです



ちびっこお姉さんも全力疾走、「徒競走」



グループ他社の委員との楽しい交流

今回私は、ZEN 運動会実行委員(競技委員)として運動会に参加しました。ZEN グループ各社の方々とは4ヶ月前から週1回集まり、競技・総務の役割に別れ打合せを行いました。

一昨年、昨年は「辰」チームの社内実行委員や応援団を行いました。今回は自分チームの勝利だけでなく来場者全員が楽しめることを念頭に置き切磋琢磨しました。各社委員の方々との意見が対立することが多々あったのですが、皆良いモノを作る姿勢が伝わってきたので苦ではありませんでした。

「辰」チームは総合で2位と2冠は達成出来ませんでした。来場していただいた多くの方の楽しんでいる姿が見ることができたので、個人的には大満足でした。会社や役職という垣根を越え、多数の会社と1つの大きなことをやるといった他ではなかなか味わえないことができ、とても貴重な経験をする事ができたと思っています。

ZEN 実行委員 大場大聖



大場(左)と小関応援団長(右)

良い経験になりました

ZEN 実行委員 櫻井 祐希

今回は入社して初めての運動会をZEN 実行委員として経験することとなりました。わからないことも多い中、4ヶ月の準備でひとつの競技の責任者となるのは大変なことも多く、とても緊張もしました。しかし、その中でグループ会社の社員の方々との接点を持って、多くの学びも得ることができ、貴重で良い経験となりました。

これからも1年に1度のグループ会社同士の交流を大切にしつつ、「辰」として競技にも参加してみたいと思います。



「選手宣誓」をする櫻井(左)

「残念無念・・・また来年」

社内応援団長 小関敏幸

とにかく、一言「残念無念」な結果となってしまいました。午前中は断トツ結果の第1位で昼休みに突入したのに・・・
昼休み明けの応援合戦の不出来が影響してか、午後はくずくずとなってしまい、結果は優勝を取り逃し第2位。さらに、応援合戦はまさかの最下位という始末。応援団長として居場所のないことになってしまいました。

・・・でも、これまで一緒に練習してきた応援団のメンバーからは「なんで、どうして・・・」「納得いかないっすよー」と悔しい声がいくらも上がりました。団長の指名で嫌々練習をやり始めたのは、ついこの前のことでした。最後はみんな熱くなっていました。息子や娘のような若い人たちと一緒に燃えることができた瞬間でした。

審査員の評価は最下位だったかもしれませんが、私からはそんな若いメンバーに心の優勝旗を渡してやりたいと心から思いました。「ヨシ、きっと来年は本物の優秀旗を奪回して、応援合戦も優勝してやる！」 壮大な1年計画がもうスタートしています。



気焔が上がります

毎年力が入る「綱引き」、今年は優勝達成！
チームワークモノをいう「むかで競走」

辰、全員集合です



(撮影/神谷渚)

次回も優勝目指して頑張ります。お客様、協力会社の皆様のご参加お待ちしております！

編集後記

- ・「SHIN CLUB 展」、いかがでしたでしょうか。今後ともよろしく願い申し上げます。
- ・12月30日から2017年1月4日まで、冬期休業とさせていただきます。

(株)辰 通信 Vol.201 発行日 2016年12月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450
E-mail : daihyo@esna.co.jp URL : http://www.esna.co.jp

「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーも掲載しています。
<http://www.esna.co.jp/shinclub>
スマホはこちらから →

